

<指導例>

項 目	注意することや行動について
<p>「備える」</p> <p>日頃から 準備しておくこと</p>	<p>①ハザードマップなどで土砂災害の危険箇所を確認しておく</p> <p>②避難所や避難経路を確認しておく</p> <p>③家族が分かれて避難した時の連絡方法を話し合う</p> <p>④非常用持ち出し袋(バッグ)を用意する</p>
<p>「注意する」</p> <p>土砂災害が 発生しそうな時に 注意すること</p>	<p>①雨の量に気をつける(1時間に20ミリ以上、1日に100ミリ以上が危険の目安)</p> <p>②土砂災害の前ぶれに気をつける</p> <p>→(がけ崩れ)石の落下、湧き水、地面のひび割れ、木が傾く、がけが膨らむ 等 (土石流)川の濁り、川に木が流れる、山鳴りや地鳴りがする、川で音がする 等 (地すべり)湧き水、地面のひび割れ、木が傾く、池の水が濁る、川の水が減る 等</p> <p>③テレビやラジオ、インターネットの情報や、役所の防災無線・パトロールカーの放送に 注意する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気象警報・大雨警報(土砂災害、浸水災害)、土砂災害警戒情報 等 ・避難情報・避難準備情報、避難勧告、避難指示など ・危険箇所・土砂災害危険箇所、土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域、ハザードマップ <p>④山やがけ、川沿いに近づかない</p> <p>⑤がけ側の部屋から離れて、反対側の部屋などに移動しておく</p>
<p>「早めに 避難する」</p> <p>避難に関して 注意すること</p>	<p>①役所からの避難勧告などの情報に気をつけ、指示に従う</p> <p>②避難情報が出ていなくても危ないと思ったら、自主的に早めに避難を始める</p> <p>③家族が揃っていないなくても、連絡を取り合いそれぞれで避難する</p> <p>④夜になると避難しにくいので、明るいうちに避難する</p>
<p>「危険を避ける」</p> <p>避難している途中な どに気をつけること</p>	<p>①逃げる時にがけや川沿いに近づかない</p> <p>②お年寄りや小さな子どもの避難を助ける</p> <p>③土砂災害は雨が降りやんだ後にも発生するので、しばらくは山や川に近づかない</p>